

2 飢餓を
ゼロに



15 食生活の持続
可能性



在来作物の保存と継承のためのデータベース作成

ある地域で栽培者が自家採種を行いながら、世代を超えて栽培してきた作物を、その地域の在来作物といいます。その品種多様性を維持することは、気候変動などに対応する品種の育成に役立つだけでなく、地域の歴史や文化、利用の知識を後世に伝える媒体としても貴重です。

しかし食生活の変化や栽培者の高齢化などの理由で継承は容易ではありません。そこで国内各地の在来品種の認知を広めるため、その特徴、歴史、利用法を紹介するデータベースを作成しています。



沖縄のインリー（カブ）



宮崎県
椎葉村
の地
キュウ
リ



宮城県鳴子温泉の鬼首菜



北海道足寄町のラワンぶき

国内の栽培植物（特に在来作物）の品種多様性の価値について認知を広め、持続可能な食料生産を支えることで、「飢餓をゼロに」の目標に貢献します。

【担当】

名前：江頭宏昌

専門分野：植物遺伝資源学

連絡先：

egashira@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp